

藤原朝臣八束の歌一首

一五四七番

さ雄鹿をしの 萩はぎに貫ぬき置おける 露つゆの白しら玉たま あふさわ
に 誰たれの人ひとかも 手てに巻まかむちふ

おほどものさかのうへのいちつめ おくて はぎ うた
大伴坂上郎女の晩の萩の歌一首

一五四八番

咲さく花はなも をそろはいとはし おくてなる 長ながき
心こころに なほしかずけり

てんちうのかみきのあそみかひと 蚤もんのだいじょうおほどものすくねいなぎみ
典鑄正紀朝臣鹿人、衛門大尉大伴宿禰稻公
の跡見とみの庄しやうに至いたりて作つくる歌うた一首

一五四九番

射い目め立たてて 跡見とみの岡をか辺への なでしこが花はな ふさ
手折たをり 我わは持もちて行いく 奈良なら人ひとのため